

## 令和3年度「平泉古事の森育成事業」 森林教室を実施しました

当署では、平成21年度より、奥州・平泉地域の文化遺産と森林・木材の関わりを学びながら、歴史的建造物の修繕等に必要で大径木を育てる森林づくり活動を行う「平泉古事の森育成事業」に取り組んでいます。例年、奥州市衣川の「平泉古事の森」において、周辺の4つの小学校の児童と森林づくり活動に取り組んできましたが、昨年度に続き、今年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、10月7日～11月16日にかけて、各校にて森林教室を実施しました。

まず事前学習として、「平泉古事の森」でのこれまでの取組のほか、森林のはたらきや、奥州・平泉の文化遺産と地域の森林・木材との関わりについて、クイズを交えて楽しみながら学んで頂きました。



続いて、児童たちがノコギリを使用して3種類（スギ、ヒノキ、ミズメ）の木を切る丸太切り体験活動を行いました。

丸太を切るのは初めてという児童が多く、苦戦する児童もいましたが、中には「家族が林業をしている」と、講師として参加した職員も顔負けの速さで丸太を切る児童もいました。どの学校でも児童たちはコツをつかむのが早く、綺麗に切断した丸太の輪切りを手に達成感を得た様子が見られました。また、材の色や匂い、手触り、葉の形など、それぞれの木の特徴についてもじっくり観察していました。

最後に、事前学習で学んだ「歴史的建造物の修繕に必要な大径木を育てるには、とても時間がかかる」ことを確認するため、事前に用意した3種類（スギ・ヒバ・ネズコ：直径約30cm）の年輪を数えました。その結果、住宅用に多く使用されるスギが30年生だったのに対し、平泉の中尊寺金色堂にも使用されているヒバは80年、その仲間のネズコは120年近くと、本当に長い年月をかけて生長していることが分かり、児童たちも驚いていました。

岩手南部森林管理署

昨年度に続き、4校の児童が「平泉古事の森」に集まり交流する機会とならなかったのは残念ですが、どの学校でも児童たちが元気に木に触れ、それぞれの木の特徴や地域の歴史との関わりについて学び、更に、自宅や学校周辺の森林や身近な木材加工品にも関心を持ってくれました。

各校の皆さん、楽しい時間をありがとうございました。



丸太切りの様子



作業中はとても真剣！



ゆっくり、まっすぐ  
鋸を引いてみよう！



その調子！

引くときに力を入れるのがポイントだよ



ミズメはスギよりもずっしり！？





年輪を数えると、木の年齢が分かるんだよ



細かい年輪を数えるのは大変でした

## 結果発表

